

大腸（仮想内視鏡）CT 検査

大腸 CT 検査とは

大腸 CT 検査とはマルチスライス CT を使った新しい大腸の検査法です。大腸内視鏡検査のように内視鏡を入れたり、注腸 X 線検査のように肛門からバリウムを注入したりせずに、あたかも大腸を内視鏡で観察したり、X 線写真を撮ったかのように調べることができます。大腸 CT 検査は高精度で、しかも大腸内視鏡検査や注腸 X 線検査と比べると、楽に短時間で検査をすることが出来ます。過去に内視鏡検査で辛い思いをされた方も、リラックスした気分で検査を受けていただけます。

大腸 CT 検査の実際

- ① 検査前日から検査当日にかけて検査食とお薬（下剤や造影剤など）を摂取していただき、腸の中をきれいにします。
- ② 検査着に着替えて CT 室に入っただき、検査台に横になります。検査直前に大腸の蠕動（食べ物を送り出す運動）を抑える筋肉注射を行います。
- ③ 細いチューブを肛門から数 cm 入れ、専用の機械を使って炭酸ガスを注入して大腸を膨らませます。



- ③ 仰向けとうつ伏せの CT をそれぞれ撮影します（約 10 分）。



- ④ チューブを抜き、検査終了です。
（検査後、炭酸ガスはすみやかに体内に吸収されるので膨満感もすぐなくなります）
- ⑤ 撮影した画像をもとに仮想大腸内視鏡像・注腸類似像などを作成し診断します。

大腸 CT 検査の画像



図 1 断層画像

マルチスライス CT 装置で得られた画像データ (図 1) から、仮想大腸内視鏡像 (図 2) や注腸類似像 (図 3) を作成し、大腸の 3 次元診断を行います。

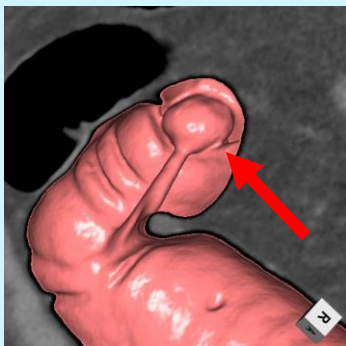
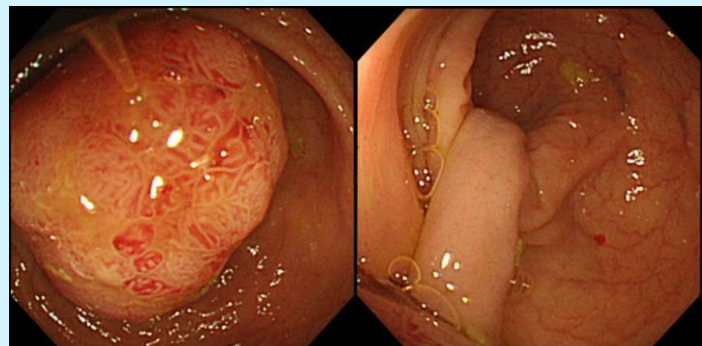


図 2 仮想大腸内視鏡像
(大腸ポリープ)



大腸内視鏡像
(大腸ポリープ)

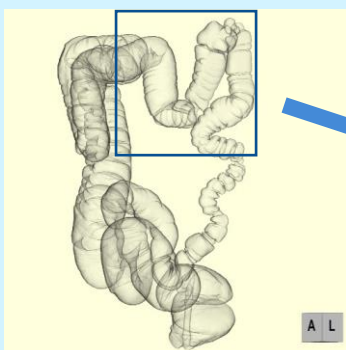
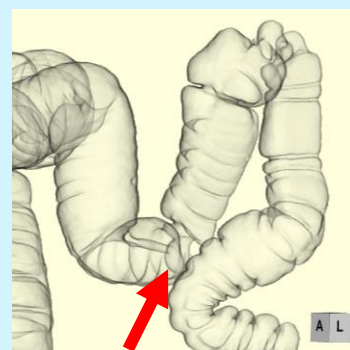


図 3 注腸類似像



長所と短所

<長所>

- ・大腸内視鏡検査と比べてお腹に優しく苦痛が少ない検査です。
- ・大腸内視鏡では観察し難い、大腸のひだや曲がり角の裏などの観察に優れています。
- ・短時間（検査室に入ってから 20 分程度）で検査ができます。
- ・ポリープの大きさや位置が正確にわかります。
- ・大腸内視鏡の挿入困難な方(腸がゆ着している方や腸が長い方)でも検査が可能です。
- ・大腸に穴が開くなどの偶発症（事故）が極めて稀です。
- ・3次元的に観察できるため、大腸全体像や病変の形状を正確に把握可能です。

<短所>

- ・5mm以下のポリープや平らな病変を見つける能力は内視鏡検査に比べて劣ります。
- ・細胞の検査やポリープの切除などの治療はできません。
(治療のために内視鏡検査をお受け頂く必要があります。)
- ・最低限の医療 X 線被ばくがあります。

大腸がんは、早期に発見すればほとんど治ります。

**しかし、自覚症状のないまま進行することが多く、
早期発見には大腸 CT などの検査が有効です。**

検査のご案内

検査日 大腸 CT 検査は毎日可能です。(13:15~)
※完全予約制です。

予約方法 久慈病院総合案内にお申し出下さい。